

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:薬学部・薬学研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	S	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		医薬品・医療機器規制科学プロジェクトを新たに立ち上げ、レギュラーサイエンス研究の一層の推進が可能な体制を整えたことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		高度先導的医療人養成プログラムにおいて、参画大学間の連携強化とこれを基盤とする積極的なプログラム開発実施を行い、大阪大学がグローバルナレッジパートナー大学に指定するグローニンゲン大学やカリフォルニア大学でプログラムを実施するなど、これまでの実績を上回る7件の海外研修事業を実施したことが評価できる。
【業務運営】	SS	平成30年度計画の達成状況が非常に優れている。
		国立大学法人初となる薬学部と大学院薬学研究科を一体化した「新全6年制教育改革」をスタートさせ、10年一貫の研究・教育を進める先進研究コースの志願倍率が昨年度を上回る3.8倍であったこと及び一般入試(Pharm.Dコース、薬学研究コース)では、薬学部入試を行う旧7帝国大学で唯一志願者数が増加するという実績が得られたこと、また、化学薬学と生命薬学の2領域に、基幹分野としてそれぞれ1研究室を新設したことが非常に高く評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 博士課程入学定員充足率(博士後期・博士)について、実績を大きく伸ばし、充足させていることが評価できる。 常勤教員一人当たりの競争的資金(科研費以外)の採択及び常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入について、積極的に取り組むことで実績を大きく伸ばしていること、大学実績に大きく寄与していることが評価できる。</p>
--